

まごころこめて磨き合う なまづっこ



「なかまと まごころこめて すすんで やりぬく子」
～学び磨き・こころ磨き・健康磨き～

2024.2.29 発行

いよいよ3月 今年度をまとめます

立春を過ぎてから間もなく1か月が経とうとしています。

『春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、

紫だちたる 雲のほそくたなびきたる。』

清少納言が書いた世界初と言われる随筆「枕草子」の冒頭の文章です。「春は夜明けが良い。徐々に白くなっていく山際が少し明るくなって、紫がかった雲が細くたなびいている景色が良い。」と訳されます。描かれている風景を想像してみると、春の暖かさが伝わってくるようです。

梅の開花のたよりも各地から聞こえてきています。寒い中、いち早く春の訪れを知らせる梅の花は、1月下旬から5月上旬までの約3か月間かけて、ゆっくりと日本列島を北上します。平安時代に活躍した菅原道真は梅をこよなく愛し、大宰府に左遷されるときに、自邸の梅の木に

『東風吹かば 匂ひおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春を忘るな』

という歌を詠んで別れを告げたそうです。天満宮に梅の木が多いのは、菅原道真が子どもの頃から梅が好きだったからと言われています。京都の北野天満宮の境内の梅や湯島天神の白梅も見頃ではないでしょうか。生津小学校の周りの梅の木も白色や紅色の花が開き、春が少しずつ近づいていることを感じさせます。

このように3月は、様々な生き物が新たな息吹を感じて活動を始め、花開く春がやってくる時期です。私たち人間にとっても、新たな目標に向けて旅立つ時期でもあります。子どもたち一人一人も四季の移ろいの中で成長し、春の新たな息吹を胸に抱いて、新しいステージへとステップアップしていく時期です。どの子も自信をもって進級・進学することができるよう、今年度の残り1か月、さらに磨き上げていきたいです。

3月の学習目標は「学習の宝物を磨こう」です。各学級がめざす姿は下記の内容です。

- ほほえみ1：ノートやプリントにかくときは、よいしせいでひだり手でおさえ、ていねいにかく。
 - ほほえみ2：すぐに先生や友達に聞く（尋ねる）のではなく、自分で考えてから行動する。
 - ほほえみ3：じゅぎょうにしゅうちゅうする。
 - ほほえみ4：漢字バトルで合計20点をとる。
 - 1年1組：誰かがあたらしたら、すぐにせめあてをする。（背筋ピン、目ビーム、足ピタ、手は膝）
 - 1年2組：クラスぜんいんにきこえるこえの大きさではなす。
 - 2年1組：せめあてで話を聞く。
 - 2年2組：話す人の方をむいてきく。
 - 3年1組：苦手なものでもあきらめずにチャレンジする。
 - 3年2組：1日1回はきよしゅをする。（自分の考えを伝える）
 - 4年1組：自分の考えを伝える。①つぶやき②きょ手③ペア・少人数
 - 4年2組：反応する。
 - 5年1組：授業前準備をする。切り替えを早くする。
 - 5年2組：拳手をし、大きな声で話す。
 - 6年1組：自分の考えをもち、ハンドサインで反応する。
 - 6年2組：拳手を増やす。
 - 6年3組：反応する。（相手を見る。声を出す。ハンドサインをする。）
- 良い姿を広げながら、みんなで達成できるように取り組みます。

